

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	塩田 昇
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学医療技術短期大学看護学科卒業後、産業医科大学病院（集中治療室）で看護師を6年経験した後、専門学校、大学で18年間の勤務を経て平成29年に福岡県立大学に着任しました。

研究は、発達障がいのある子どもの親とその子どもの睡眠問題について質問紙、生体指標を用いて明らかにすることです。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 塩田昇, 江上千代美. 発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較, 福岡県立大学看護学研究紀要 21 巻, 27-34(2024).
- ・ 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 桑野瑞恵, 塩田昇, 山下裕史朗. ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践. 小児保健研究 80(3):303-306 (2021).

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 発達障がいのある子どもの親へのトリプルPによる支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第42日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響—POMS、唾液コルチゾール—. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第42回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 母親の睡眠関連問題とその学童期の子どもの睡眠習慣の検討. 塩田昇, 江上千代美. 第47回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.
- ・ 看護学生の倫理観を養う教育内容の検討—「薬害被害者」の講演をとおして—. 廣瀬理絵, 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第46回日本看護研究学会学術集会. オンデマンド. 2021.

② 過去の主要業績

- ・ Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci. vol166 no3, p265-73. 2016.
- ・ 塩田昇. セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文. 2016.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業（基金分）（若手 平成29年度～令和4年度 交付金額4,160千円）
研究課題, 継続的なトリプルP 介入による睡眠の質, 量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究（研究代表者：塩田昇）
- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 令和4年度～7年度）親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：塩田昇）
- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 令和18年度～令和5年度）発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上-基本的生活習慣の習得を目指して-（研究分担者：塩田昇）

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本心身医学会会員, 日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年次・後期, 生態病態看護学実験・1単位・2年次・前期, 病態看護学Ⅱ・2単位・1年次・前期, 統合実習・2単位・4年次・通年, 看護倫理学・2単位・2年次・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 卒業研究・2単位・4年次・通年

7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・香春町

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学出前講義「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」, 福岡県立嘉穂高等学校；11月28日
- ・リカレント教育研修会：頭部の痛み（頭痛等）に対するフィジカルアセスメントの実践（卒業生対象リカレント教育研修）3月20日
- ・大丸エルガー入試説明会4月18日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員